平成28年度　第２回企画展示

江川が結ぶ縄文のムラ

ー高井・諏訪野・デーノタメー

江川は、鴻巣市、北本市、そして桶川市の西部を流れ、荒川と合流します。この流域には多くの遺跡があり、中でも昭和43年以来、12回の調査が行われた日出谷地区の高井遺跡は、今から約5,000年前にあたる縄文時代中期の大規模な集落遺跡として知られています。

近年、江川の流域では、高井遺跡とほぼ同じ年代の大規模な集落遺跡として、川田谷地区の諏訪野遺跡が圏央道建設の中で調査され、注目を集めました。

さらに、北本市の江川流域では、デーノタメ遺跡があり、台地上の集落遺跡とともに水辺の暮らしの跡が確認されています。

今回の展示では、当館所蔵の高井遺跡の出土品に加えて、埼玉県立さきたま史跡の博物館ならびに北本市教育委員会の協力を得て、諏訪野遺跡とデーノタメ遺跡の資料を併せて展示し、江川の谷をめぐって営まれた縄文時代のムラとその暮らしを知る機会とします。

展示期間

平成29年３月５日（日）～５月７日（日）

関連事業

展示解説講座　『発掘者からの報告　－高井・諏訪野・デーノタメー』
平成29年３月26日　午前９時30分開講

特別文化財講座　『縄文の豊かさを知る　ー杉並縄文人からの伝言ー』
講師：岡村道雄氏（奥松島縄文村歴史資料館名誉館長）
平成29年３月26日　午後２時開講

桶川市歴史民俗資料館

諏訪野遺跡 ―圏央道の建設によって姿を現した遺跡―

発掘調査区

諏訪野遺跡は、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）を建設に伴う事前調査として、平成19年（2007）５月から翌年の９月にかけて発掘調査が行われています。遺跡からは、縄文時代中期（約5000年前）のひとびとが暮らしていたムラの跡が姿を現し79軒の竪穴住居跡が発見されました。

諏訪野遺跡のムラは、竪穴住居が広場をとりかこむように円形に並ぶ「環状集落」であると考えられ、その規模はさしわたし180ｍに達します。これらの竪穴住居の掘り込みが深いもので１ｍほどに達し、遺構の保存状態が良く、土器をはじめとする大量の遺物が発見されました。

また、広場の中には、直径１ｍ前後の土壙(穴)が集中している場所が複数存在し、その数は181基にのぼります。これは住人たちの共同墓地であったと考えられています。

勝坂式土器　第25・27号住居跡

高井遺跡 ―桶川の都市開発の中で次第に姿を現した遺跡―

第３次調査　発掘調査風景

有孔つば付土器　第３次調査

桶川市大字下日出谷字高井と大字上日出谷字原新田に所在する高井遺跡は、昭和43年（1968）に桶川市立西小学校の建設に先だって行われた第１次発掘調査以来、12回の調査によって85軒の竪穴住居跡が見つかり、遺跡の全容をほぼ知ることができた遺跡です。

中でも昭和55年（1980）に行われた第３次調査によって、この遺跡が大規模な環状に竪穴住居がならぶ遺跡であることを確認しました。

この縄文のムラは、諏訪野遺跡よりも継続期間が長く、加曾利ＥⅢ式土器が出土する住居跡が見つかっています。

また、高井遺跡の東には縄文時代後期から晩期の遺跡である高井東遺跡があり、高井遺跡と併せて、縄文時代の社会の移り変わりを知ることができる貴重な遺跡となっています。

デーノタメ遺跡 ―「関東最大級」の環状集落―

水辺の発掘調査区

デーノタメ遺跡では、これまで4回の発掘調査と、2回の追加調査が行われています。

調査の結果、中期（約5,000年前）の集落は環状集落というドーナツ形をしており、長径210ｍ、短径140ｍの規模ということがわかりました。これは「関東最大級」といってよい規模です。さらにその東側には後期（約3,800年前）の集落が広がっています。

また、集落は縄文時代中期から後期までの約1,200年間継続していたことから、高度な定住生活を送っていたことがわかります。デーノタメ遺跡は、同一の場所で集落がこれほど長期間継続していること、集落が完全な形で保存されていることが、他の遺跡にはない特徴といえます。

漆塗り土器　縄文時代中期